

# PRESS RELEASE

報道関係各位



2026 年 1 月 16 日

株式会社 T5

発信 No.002

## セイノーグループ物流拠点の自動化を T5 が支援

### 設計・施工・ROI 改善まで包括支援する自動倉庫プロジェクトが始動

―現場要件と運用戦略に基づき「Nano-Stream®」を導入、T5 が設計・施工をワンストップで推進―

物流オペレーションの改善をミッションとする株式会社 T5（本社：東京都世田谷区、代表取締役：大西弘基、以下「T5」）は、セイノーグループの株式会社地区宅便（本社：東京都練馬区、代表取締役社長：河合秀治、以下「地区宅便」）が運営する第 1・第 2 ロジスティックスセンターにおいて、自動倉庫導入プロジェクトを受注し、2026 年 7 月に稼働開始します。



本プロジェクトでは、これまでに実施した**現場要件および運用戦略に基づき選定された自動倉庫「Nano-Stream®（ナノストリーム）」**を中核設備として導入します。T5 は戦略的パートナーとして、**設計・施工・据付・稼働立ち上げまでを一貫して推進**し、物流現場の**自動化と ROI（投資対効果）の最大化**を図ります。

2026 年 7 月 の稼働開始を目指し、現在は詳細設計および工事準備を進行中です。T5 は今後も、中立的な立場から戦略立案と現場実装を両立する戦略的パートナーとして、物流業界の持続的な成長に貢献していきます。

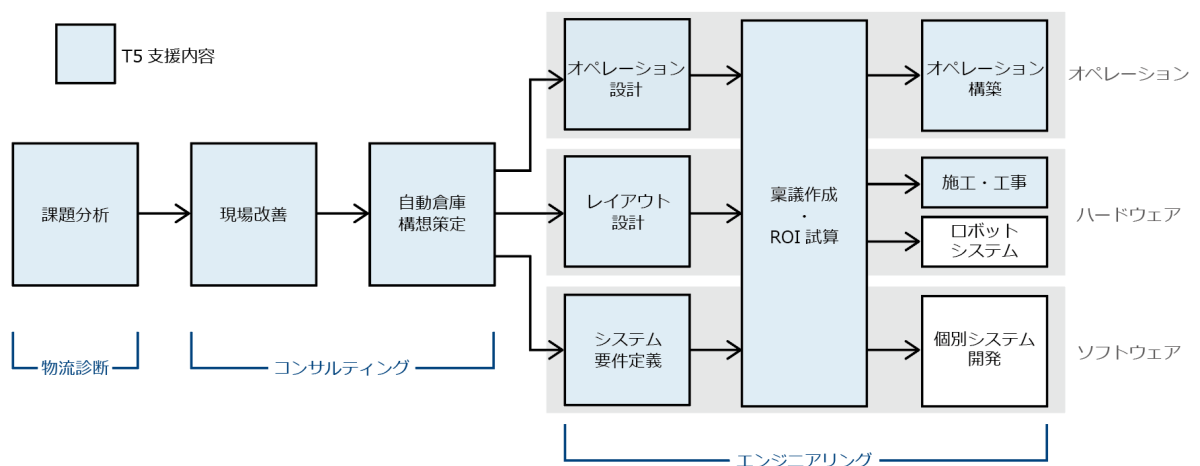


ROMS 社製 「Nano-Stream®（ナノストリーム）」

### 【背景】

EC 市場の拡大や人手不足を背景に、物流現場では「多頻度出荷」「短リードタイム」「在庫可視化」が求められています。とくに、ライブコマースのように顧客接点と倉庫オペレーションが連動する業態では、調達から在庫管理、梱包、発送までのフルフィルメント機能だけでなく、安定的で効率的なサプライチェーンを実現させることが必須となります。

地区宅便ではこうした動向を踏まえ、グループ全体の物流 DX 方針の一環として「自動化×可視化×即応性」を実現するパートナーが不可欠であり、また設備の導入を目的とするのではなく、実際の業務効率化につながる自動化を実現するため、オペレーションの設計から構築までベンダーフリーの立場で支援できる T5 との協業にいたしました。



### 【プロジェクト概要】

項目	内容
顧客企業	株式会社 地区宅便（セイノーグループ）
拠点	第1・第2ロジスティックスセンター
プロジェクト期間	2025年4月～2025年11月（構想フェーズ） 2025年12月～2026年10月（導入フェーズ）
T5の支援領域	現状分析／構想策定／機器選定・受注対応／導入計画策定／ ROI試算／意思決定支援資料設計
導入予定設備	ROMS社製「Nano-Stream®（ナノストリーム）」
今後の展開	2026年7月稼働予定

### 【株式会社地区宅便について】

東京都練馬区に本社を構え、埼玉県・千葉県・北海道にも拠点を持つ老舗のメール便・ポスティングサービス会社です。同社は「Green 物流」を理念に掲げ、地域密着型の物流サービスを展開し、環境に優しい配送手法の実現に取り組んでいます。長年にわたるメール便配送のノウハウと、徒歩や自転車など環境負荷の低い輸送手段を活用したサービスで、持続可能な配送ネットワークを築いてきました。

（企業サイト：<https://www.tikutakubin.co.jp/>）

### 【T5による支援内容】

T5は、特定メーカーや商社に属さない**ベンダーフリー体制**のもと、経営層・現場・技術の三層をつなぎ構想から導入・立ち上げまでを一貫して支援する**伴走型物流インテグレーター**です。

今回の案件では、単なる自動化支援を超えた**“経営レイヤー起点の支援”**を実施しました。

フェーズ	T5：支援内容	特徴
上流構想	倉庫レイアウト・KPI設計・ROI試算	現場データに基づく経営判断支援
意思決定	稟議資料設計・投資対効果の定量化	経営会議通過を支援
実装設計	自動倉庫・WMS連携・インフラ整備	ベンダーフリーな最適構成

## 【コメント】

### 株式会社地区宅便 代表取締役社長 河合 秀治 氏

T5社は、現場実態の把握から投資判断資料の作成、複数ベンダー比較まで一貫して伴走してくれました。グループ全体の物流改革を支える最適パートナーとして高く評価しています。

### 株式会社 T5 代表取締役 大西 弘基 氏

物流 DX は、設備選定から始まるのではなく、“戦略と現場を結ぶ設計”から始まります。今回のプロジェクトは、グループ全体での意思決定プロセスと連動した自動化の理想形の1つになると考えています。

T5 は今後も、物流企業・製造業・小売業など物流のオペレーションを有する多様な業界に向け、

**「戦略 × 現場 × テクノロジー」を統合する実行型 DX 支援**を拡大してまいります。

特に本年は、自動倉庫・ロボティクス導入における「ROI 設計」や「稟議支援」領域を強化し、経営層が“投資判断を下しやすい DX”を推進します。

お問い合わせ先：株式会社 T5 代表：大西弘基

Email：[info@t5-automation.jp](mailto:info@t5-automation.jp)

T5 公式サイト：<https://t5-automation.jp/>